

部課名		下水道部下水道経営総務課												
課の使命		<ul style="list-style-type: none"> <li>市民に安全で衛生的な生活環境を提供するために、下水道事業の進捗管理を行い、効率的で健全な下水道事業経営を行います。</li> <li>下水道部各課の情報を迅速に共有し、関係部署との調整を行い、部内の円滑な業務遂行を図ります。</li> </ul>												
実行計画(年度目標)														
年度目標設定				中間確認				年度末確認						
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括		目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	経営改革プラン	「未来につながる下水道事業プラン」に基づく進捗確認及び評価分析	「未来につながる下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)に基づき事業の進捗確認及び経営の健全性や効率性、施設の老朽化の状況などの評価分析を行います。	進捗確認及び評価分析	実施	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年度に実施した各事業の進捗状況を取りまとめました。</li> <li>「経営の健全性」「経営の効率性」「施設の老朽化の状況」について、2023年度決算をふまえて、総務省が示す経営指標に基づき経営分析を開始しました。</li> </ul>	事業の進捗状況や決算、他市との比較をふまえた経営分析を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年度に実施した各事業の進捗状況を取りまとめ、概ね良好であることを確認しました。</li> <li>2023年度決算を取りまとめ、総務省が示す経営指標に基づく数値を算出しました。また、他市の指標と比較した上で経営分析を行い、町田市下水道事業審議会で説明しました。経営状況は概ね良好ではありますが、昨今の物価高騰に伴う維持管理費用の上昇傾向や、下水道施設の老朽化進行による将来的な更新需要の増大及び膨大な更新財源の確保に備えて、下水道使用料の見直しを含めた収益増進の方法について検討する必要があるということが分かりました。</li> </ul>		実施	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、「未来につながる下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)を基に各事業の評価、経営分析を進めます。
2	事務事業見直し	下水道事業の民間活力導入に関する検討	下水道事業手法の選定に向け、事業の現状と課題及び対象とする業務と範囲を整理し、事業スキーム案を作成します。	事業スキーム(業務範囲及び実施手法)案の作成	完了	○	事業手法の検討に向け、各課の業務を洗い出すとともに、今後の業務上の課題(ヒト・モノ・カネ)についてアンケート及びヒアリングを実施し、現状と課題の整理を行いました。	現状と課題の整理結果を踏まえて、対象施設、対象業務の検討を進め、事業スキーム案を作成します。	下水道事業の持続可能な運営を目指すため、下水道部ウォーターPPPの導入可能性検討部会及び作業部会を立上げ検討を行いました。検討を行うにあたり、市民サービスの質の向上、コスト削減、財政負担の軽減、地域経済の活性化などの視点で進めました。検討状況として、①現状分析・課題の洗い出し②課題に対する対応方針と業務分類の検討を行い、導入可能性のある複数の事業スキーム案を作成しました。		完了	C	C:目標水準を達成したためです。	複数の事業スキーム案の中から、導入効果が十分に表れる案を絞り込みます。
3	事務事業見直し	安定した下水道事業経営の推進	将来を見据え安定した下水道事業経営を継続するため、経営戦略の見直しについて検討します。	①既存計画の評価及び分析 ②投資・財政計画案の作成	①完了 ②完了	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①2021～2023年度まで3年間分の各事業の進捗状況や経営分析の振り返りなど、町田市下水道事業審議会にて提示する資料を作成しました。</li> <li>②経営戦略(改定版)における「投資・財政計画案」の作成に向けて、2026年度からの10か年の事業計画の見直しと事業費の算出を進めました。また、10か年の財源の試算を開始しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①町田市下水道事業審議会を開催し、既存計画の評価及び分析をした上で、経営戦略の見直しについて審議します。</li> <li>②10か年の事業計画等に基づき、経営戦略における「投資・財政計画案」を作成します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①過去3か年の各事業の進捗状況を踏まえ、既存計画の評価を行いました。その上で、今後の課題を洗い出し、課題の解決に向けて今後取り組むべきことについて整理しました。また、財務の視点からも3か年の評価・分析を行い、財務上の課題を整理しました。これらの振り返り結果を踏まえて資料を作成するとともに、町田市下水道事業審議会において説明し、審議に付しました。</li> <li>②10か年の事業計画等に基づき、事業費の算出及び財源の試算をした上で、経営戦略における「投資・財政計画案」(素案)を作成しました。</li> </ul>		①完了 ②完了	C	C:目標水準を達成したためです。	将来を見据え安定した下水道事業経営を継続するため、引き続き、経営戦略の見直しについて検討します。

部課名		下水道部下水道経営総務課											
課の使命		・市民に安全で衛生的な生活環境を提供するために、下水道事業の進捗管理を行い、効率的で健全な下水道事業経営を行います。 ・下水道部各課の情報を迅速に共有し、関係部署との調整を行い、部内の円滑な業務遂行を図ります。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定				中間確認				年度末確認					
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進 捗 状 況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
4	個別 計画	「町田市公共 下水道全体計 画」及び「町田 市公共下水道 事業計画」の 改定	東京都策定の「多摩川・荒川等流域別下水道整備 総合計画(以下、流総)」と整合を図り、「町田市公 共下水道全体計画(以下、全体計画)」を改定し、 「町田市公共下水道事業計画(以下、事業計画)」 を変更します。	①「全体計画」の改定 ②「事業計画」の変更	①完了 ②変更	○	①汚水について、上位計画である 東京都の「流総」で示された町田市 の計画汚水量を把握しました。雨水 については、浸水シミュレーショ ンが完了しました。また、雨水量を 把握するため流量計等を設置し、 データ取得を開始しました。	①汚水については町田 市の計画汚水量を設定 し、また雨水について は、浸水シミュレーショ ンの結果と取得した雨水量 データを基に、現行の 「全体計画」を改定しま す。 ②東京都の「流総」改定 が遅れているため、現行 の「事業計画」の期間を 延伸した上で、「事業計 画」変更の準備を進めま す。	①「全体計画」を改定しました。 ・「流総」で定められた「汚水排出量」や「処 理水の水质基準」の目標等と整合を図りまし た。 ・水害の発生リスクなどを調査し、浸水被害の 軽減を図るよう、計画を見直しました。 【計画年度:2025～2049年度】 ②「事業計画」について、計画期間を変更し、 2025年度まで延伸しました。また、来年度に 行う「事業計画」変更の準備を進めました。	①完了 ②変更	C	C:目標 水準を達 成したた めです。	「事業計画」につい て、2025年度中に 事業内容と計画期 間の変更を実施し ます。
5	個別 計画	下水道BCP (下水道事業 継続計画)等 の災害対応計 画に基づく管 理・運用及び 訓練や研修の 実施	下水道事業継続マネジメント部会を開催し、災害 時対応等について検討します。大規模災害が発生 した場合でも、下水道が果たすべき機能を速やか に、かつ高レベルで確保するため、部内で訓練や 研修を実施します。	訓練や研修の実施回数	4回	○	訓練を以下の3回実施しました。 ・6月に町田市・第九消防方面合同 総合水防訓練に参加し、土のう積 み訓練を実施しました。 ・7月に町田市総合水防訓練(図上 訓練)に参加し被災対応及び町田 市防災システム入力訓練を実施し ました。 ・9月に地震対応訓練として、参集 訓練及び発災後から3時間までの 対応を想定した訓練を実施しまし た。	・11月に地震対応訓練と して、発災3時間後から6 時間までの対応を想定し た訓練を実施します。	訓練を以下の4回実施し、災害対応のスキル の向上を図りました。 ・6月に水害訓練(実働訓練)を実施しました。 ・7月に水害訓練(図上訓練)を実施しました。 ・9月に地震訓練(発災から3時間後までを対 象にした訓練)を実施しました。 ・11月に地震訓練(発災3時間後から6時間後 までを対象にした訓練)を実施しました。 訓練後のアンケート結果等を参考に、下水道 BCPマニュアルの一部を修正しました。	4回	C	C:目標 水準を達 成したた めです。	今後も訓練を実施 し、大規模災害が 発生した際は、下 水道が果たすべき 機能を速やかに、 かつ高いレベルで 確保できるようにし ます。
6	個別 計画	下水道事業に 関するPRの推 進	下水道の仕組みなどについて、ホームページ上 での説明、下水道広報紙の発行等により、下水道事 業に関するPRを行います。	市民等への情報発信回 数	5回	○	下水道事業に関するPRを以下の4 回実施しました。 ・7月14日に鶴見川源流交流会に 参加し、流域で活動している団体 や流域自治体と交流を図りました。 ・8月15日に町田市防災WEBポ ータルにて、台風7号に備えて水害防 止の協力を呼びかけました。 ・8月19日から5日間、市庁舎1階に て「下水道の日」のイベントを開催 し、動画やパネル展示でPRを行 い、601人の来場者がありました。 ・9月1日に下水道PR広報紙「まち だ下水道通信」を発行し、市内約7 万2千世帯及び市民センター等に おいて1万500部配布しました。発 行について町田市ホームページの ほか、新たな発信方法としてLINE のプッシュ通知も活用し、周知を行 いました。	・3月1日に「まちだ ECOTOフェスタ」に参加し てPRを実施します。 ・3月に成瀬クリーンセン ターさくらまつりでPRを 実施します。	下水道事業に関するPRを以下6回実施しまし た。このうち「まちだ下水道通信」は約83,000 部配布するほか、新たな発信方法としてLINE のプッシュ通知も活用し、広く市民に周知しま した。 ・7月9日に鶴見川源流交流会で、流域で活動 している団体や流域自治体と交流を図りまし た。 ・8月に町田市防災WEBポータルにて、台風7 号に備えて水害防止の協力を呼びかけまし た。 ・8月19日から5日間、「下水道の日」イベントを 開催しました。 ・9月1日に下水道PR広報紙「まちだ下水道通 信」を発行しました。 ・3月1日に「まちだECOTOフェスタ」に参加して PRを実施しました。 ・3月29日に成瀬クリーンセンターさくらまつり でPRを実施しました。	6回	B	B:当初の 目標を上 回る成果 が上がっ たため です。	引き続き、下水道の 役割や課題、魅力 を多くの市民等に 理解してもらえるよ うにPR活動を実施 していきます。
7	個別 計画	経営意識の向 上を図る部内 研修の実施	下水道事業の基礎知識や経営意識の向上を図る ため、新入職員、異動職員や部内の職員に向けた 部内研修を実施します。	部内研修の実施回数	3回	○	部内研修を以下の2回実施しまし た。 ・4月17日から1か月間、部内職員 に対し、「未来につながる下水道事業 プラン～町田市下水道事業経営戦 略」研修をe-ラーニングで実施し、 100名が受講しました。 ・5月9日に異動職員に向けた部内 研修を実施し、12名が受講しまし た。	・2月に部内職員に対し、 「公営企業会計・複式簿 記研修」を実施します。	部内研修を以下の3回実施しました。 ・4月に部内職員に対し、「未来につなぐ下 水道事業プラン～町田市下水道事業経営戦 略」研修をe-ラーニングで実施しました。 ・5月に異動職員に向けた部内研修を実施し ました。 ・2月に部内職員に対し、「公営企業会計・複 式簿記研修」を実施しました。	3回	C	C:目標 水準を達 成したた めです。	今後も、職員の受 講のしやすさ等を 考慮しつつ様々な 研修を継続的に実 施し、円滑な業務 遂行と、より一層 の経営意識・知識 の向上を図ってい きます。

部課名		下水道部下水道整備課											
課の使命		・豪雨による浸水や地震による被災への備えと対策を強化し、災害に強いまちづくりを進め、安心な暮らしを築きます。 ・水路や河川の水質向上を図り、快適な住環境を確保するため、汚水管と合併処理浄化槽による整備を進めます。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	雨水管の整備	浸水被害を軽減するために、雨水幹線や枝線の工事を行います。	浸水対策事業における完了箇所数	2箇所	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>日向台交差点北側エリアの浸水対策箇所については、2023年度より引き続き整備を進めていますが、支障となる他企業埋設管の移設やその調整に時間を要したため、工事の進捗に遅れが生じています。</li> <li>南町田五丁目エリアの浸水対策箇所については、道路管理者との調整に時間を要したことにより、設計業務に遅れが生じたため、工事発注予定時期が遅れています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な施工管理及び他企業との調整を行い、整備を進めていきます。</li> <li>設計業務を早期に完了させ、1月から工事に着手します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日向台交差点北側エリアの浸水対策箇所については、支障となる他企業埋設管の移設等に時間を要し、工事進捗に遅れが生じたため、年度内に完了することができませんでした。(工事進捗率:約60%)</li> <li>南町田五丁目エリアの浸水対策箇所については、道路管理者との調整及び工法検討に時間を要したため、年度内に完了することができませんでした。(工事進捗率:約10%)</li> </ul>	0箇所	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日向台交差点北側エリアについては、工程に遅れが生じないよう、関係機関との調整を綿密に行い、2025年度に工事を完了させます。</li> <li>南町田五丁目エリアについては、工程に遅れが生じないよう、関係機関との調整を綿密に行い、2025年度に工事を完了させます。</li> </ul>
2	重点事業プラン	雨水管の耐震診断	緊急輸送路等に布設され、かつ、軟弱地盤に埋設され液状化の可能性が高い雨水管の耐震診断を行います。	雨水管耐震診断延長	10.8km(累計)	○	雨水管の耐震診断については、6月に契約を締結し、8月に調査に着手しました。	現地調査結果に基づいて耐震診断を行い、工期内に耐震診断を完了しました。	雨水管の耐震診断については、設計時に調査方法を精査し、より効率的に診断できるように調整を行ったことで、目標値である10.8km(累計)を上回る12.9km(累計)の診断が完了しました。	12.9km(累計)	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	雨水管の耐震化の推進に向けて、計画的に耐震診断・設計・工事を進めていきます。
3	個別計画	下水道管の改築更新	下水道施設の予防保全型維持管理を計画的に行うため、管路修繕・改築計画をもとに、改築工事を実施します。また、詳細設計を発注し、次年度の改築工事に向けて準備をします。	改築工事延長	5.9km(累計)	○	2024年度に計画していた改築更新工事4件については、予定より前倒しして、5月までに発注し順調に進捗しています。また、7月に設計業務委託を発注し次年度に向けた準備を開始しました。	施工管理を適切に行い、工期内に工事を完了します。また、次年度の改築更新工事の設計業務を完了します。	下水道管の改築更新については、早期発注及び適切な施工管理を行ったことにより、4件で延べ3.4km(累計5.9km)の改築更新工事を工期内に完了しました。また、次年度の改築更新工事のための詳細設計を予定どおり完了し、早期発注に向けた準備を進めました。	5.9km(累計)	C	C:目標水準を達成したためです。	町田市ストックマネジメント計画に基づき、計画的に改築更新工事を進めていきます。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	事務 事業 見直し	下水道事業の 民間活力導入 に関する検討	下水道事業手法の選定に向け、事業の現状と課題 及び対象とする業務と範囲を整理し、事業スキーム 案を策定します。	事業スキーム(業務範囲 及び実施手法)案の策 定	完了	○	事業手法の検討に向け、各課の業 務を洗い出すとともに、今後の業務 上の課題(ヒト・モノ・カネ)について アンケート及びヒアリングを実施し、 現状と課題の整理を行いました。	現状と課題の整理結果 を踏まえて、対象施設、 対象業務の検討を進 め、事業スキーム案を策 定します。	下水道事業の持続可能な運営を目指すた め、下水道部ウォーターPPPの導入可能性検 討部会及び作業部会を立上げ検討を行いま した。 検討を行うにあたり、市民サービスの質の向 上、コスト削減、財政負担の軽減、地域経済 の活性化などの視点で進めました。 検討状況として、①現状分析・課題の洗い出し ②課題に対する対応方針と業務分類の検討 を行い、導入可能性のある複数の事業スキ ーム案を作成しました。	完了	C	C:目標 水準を達 成したた めです。	複数の事業スキ ーム案の中から、導入 効果が十分に表れる 案を絞り込みま す。
5	事務 事業 見直し	事業の廃止・ 縮小(合併処 理浄化槽設置 事業補助金制 度の変更)	「町田市公共用水域水質改善10ヶ年計画」に基づ き、2026年度までに、合併処理浄化槽への転換に 伴う補助金額の見直しを行います。	①今後の方向性の検討 ②制度改正の周知	①検討 ②周知	○	①合併処理浄化槽への転換に伴う 補助金額の見直し案の検討を進め ました。 ②制度改正の周知方法等の検討 を行い、準備を進めました。	①引き続き、合併処理浄 化槽への転換に伴う補 助金額の見直し案の検 討を進め、方針を決定し ます。 ②補助金額の見直し方 針決定後に制度改正の 周知を行います。	①合併処理浄化槽への転換に伴う補助金額 の見直しの方針案を作成しました。 ②対象者に制度見直し内容のお知らせを郵 送及び訪問により配布することで、周知を行 いました。	①検討 ②周知	C	C:目標 水準を達 成したた めです。	引き続き、「町田市 公共用水域水質改 善10ヶ年計画」の進 捗を踏まえながら、 合併処理浄化槽へ の転換に伴う補助 金額の見直しに向 けて準備を進めま す。
6	事務 事業 見直し	事業の廃止・ 縮小(浄化槽 維持管理費補 助金制度の変 更)	「町田市公共用水域水質改善10ヶ年計画」に基づ き、2026年度までに、単独処理浄化槽への維持管 理費補助金の見直しを行います。	①今後の方向性の検討 ②制度改正の周知	①検討 ②周知	○	①単独処理浄化槽への維持管理 補助金額の見直し案の検討を進め ました。 ②制度改正の周知方法等の検討 を行い、準備を進めました。	①引き続き、単独処理浄 化槽への維持管理補助 金額の見直し案の検 討を進め、方針を決定し ます。 ②補助金額の見直し方 針決定後に制度改正の 周知を行います。	①単独処理浄化槽への維持管理補助金額の 見直しの方針案を作成しました。 ②対象者に制度見直し内容のお知らせを郵 送し、周知を行いました。	①検討 ②周知	C	C:目標 水準を達 成したた めです。	引き続き、「町田市 公共用水域水質改 善10ヶ年計画」の進 捗を踏まえながら、 単独処理浄化槽へ の維持管理補助金 額の見直しに向 けて準備を進めま す。

部課名		下水道部下水道管理課											
課の使命		<p>「水」が滞りなく流れるよう予防保全型の維持管理を進め、安定的な機能確保を図り、啓発活動を通じて市民の皆様とともに「良好な水環境」を次世代につなげます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道施設(管きよ等)、水路等の維持管理を適切に行います。</li> <li>・下水道施設(管きよ等)の修繕を行うことで、下水道施設の老朽化に対応します。</li> <li>・調整池の貯留機能を維持し、浸水被害を軽減します。</li> <li>・浸水被害を防ぐため、豪雨前のパトロールを行い、被害を軽減します。</li> <li>・下水道施設(管きよ等)、宅内排水設備の適切な設置を指導します。</li> <li>・職員が仕事内容を共有し、仕事の理解力を向上します。</li> <li>・適正に下水道台帳を閲覧できるようにします。</li> </ul>											
実行計画(年度目標)													
順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
1	個別 計画	ストックマネジメント(※)による下水道事業の推進  (※ストックマネジメント:良好な下水道サービスを継続的に提供するための事業運営)	下水道施設の予防保全型維持管理を計画的に行い、今後増大する維持管理コストの平準化を図るため、基本計画に基づき、「町田市下水道管路施設資産管理第2期調査実施計画」による点検・調査を行います。	劣化状況の点検・調査延長	54km	○	6月に劣化状況の点検・調査の業務委託契約を締結し、同月に調査に着手しました。	点検・調査の結果を分析し、管路の劣化状況の評価を行います。	下水道管の劣化状況を把握するため、予定どおり54kmの区間でTVカメラ調査、目視等の点検調査を実施し、評価、分析を行いました。その結果、全体の8.56%で劣化が進行していることを確認しました。	54km	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、2025年度以降も劣化状況を把握するための業務を実施し、予防保全型維持管理に努めます。
2	個別 計画	調整池データの整理	下水道部が管理する雨水調整池について、清掃や草刈りを計画的に実施するため調整池データを整理します。	調整池データの整理	完了	○	浚渫について、過年度の点検データから必要な浚渫土量や浚渫箇所を抽出を行いました。草刈りについて、過去の要望の有無や交通障害・住居被害といった現地状況の確認を行いました。	浚渫について、上半期で整理したデータを基に優先順位の検討を行います。草刈りについて、過去の要望や現地状況から、優先順位の検討を行います。	点検データから抽出した土砂量などを基に、浚渫を行う箇所の順位付けを行いました。また、調整池の貯留量を確保するために、除去する土砂の量と箇所数を算出した結果、1,835.27 m <sup>3</sup> /年、5箇所/年となりました。草刈りについて、過去の要望の件数と現地状況の確認結果を合わせて、草刈りを行う箇所の順位付けを行いました。	完了	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	データが上半期で整理できたため、下半期では優先順位等の検討まで行え、今後は事業費の算出等を行い、維持管理計画を策定します。
3	個別 計画	対象水路の点検	2023年度に策定した点検要領に基づき点検を実施します。点検結果を基に、水路構造物の劣化状況を取りまとめます。	点検延長	5km	○	6月に水路等点検調査の業務委託契約を締結し、同月に調査に着手しました。	今年度分の点検調査を行い、水路構造物の劣化状況を取りまとめます。	目標値5kmに対し6kmの点検延長について点検調査・評価及びデータ整理を行い、水路構造物の劣化状況を取りまとめました。	6km	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、2025年度以降も水路修繕計画の策定に向けて、対象水路の点検を進めます。
4	個別 計画	(業務効率化)適切な文書の管理と活用	①紙媒体で保存されている文書の電子化のルール作りを行います。 ②公共ますの電子申請について、試行及び評価を行います。 ③その他、電子申請化する対象を選定します。	①ルール作り ②試行及び評価 ③選定	①・②完了 ③完了	○	①③課内でアンケートを実施し、申請書類の種類を把握しました。 ②試行として、指定工事店15社から電子申請を受け付け、課題を確認しました。	①把握した申請書類を、「届出のもの」と「審査が必要なもの」に分類します。「届出のもの」の電子化を優先するルールを策定します。 ②課題をもとに、公共ますの電子申請の評価を行います。 ③把握した申請書類の「届出のもの」の中から電子申請化する対象を選定します。	①アンケート結果を基に、文書の電子化を進めるための課内ルールを策定しました。 ②電子申請の試行を行い、課題を確認しました。その結果、一部を電子申請化することとしました。 ③アンケートの結果を基に、電子申請化に適したものを検討し、最終的に施工通知を対象に選定しました。	①完了 ②完了 ③完了	C	C:目標水準を達成したためです。	①策定したルールを課内に周知し、文書の電子化を進めます。 ②今後も、実施する中で出る課題を確認しながら、改善していきます。 ③引き続き、2026年度の試行に向けて、電子申請化の検討を進めます。

順位	計画 類型	年度目標設定				中間確認			年度末確認				
		取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
5	個別 計画	災害対応力強化	災害時に迅速に対応できるよう研修を行います。	研修の実施回数	2回	○	土のう積工法を行うための事前準備として、保管してある土のう袋の状態を確認しました。また、マンホール蓋の開閉訓練の準備として、現地にて、使用するマンホール蓋の選定を行いました。	土のう積工法研修とマンホール蓋の開閉訓練を実施します。	11月に土のう積工研修及びマンホール蓋の開閉訓練研修、さらに1月に災害時における一次調査訓練研修を実施しました。3回の研修とも実際に作業を行ったことで、災害時により迅速に対応する力を強化することができました。	3回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、効果的・効率的な研修を実施し、職員の能力向上に努めます。
6	事務 事業 見直し	雨水浸透設備設置助成事業の見直しを検討	助成事業で設置される浸透設備と助成事業以外で指導して設置している浸透設備を比較し、業務量に対する効果を検証します。	効果の検証	完了	○	助成事業で設置される浸透設備と、助成事業以外で指導して設置している浸透設備の数量及び業務量を確認しました。	業務量に対する効果を検証します。	助成事業と助成事業以外で設置される浸透機は機能は同等だが、前者は後者と比較して、設置するのに1基あたり、約33.7倍の業務量を要することを確認しました。	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	今回の結果を基に、事業のあり方を検討します。
7	事務 事業 見直し	下水道事業の民間活力導入に関する検討	下水道事業手法の選定に向け、事業の現状と課題及び対象とする業務と範囲を整理し、事業スキーム案を策定します。	事業スキーム(業務範囲及び実施手法)案の策定	完了	○	事業手法の検討に向け、各課の業務を洗い出すとともに、今後の業務上の課題(ヒト・モノ・カネ)についてアンケート及びヒアリングを実施し、現状と課題の整理を行いました。	現状と課題の整理結果を踏まえて、対象施設、対象業務の検討を進め、事業スキーム案を策定します。	下水道事業の持続可能な運営を目指すため、下水道部ウォーターPPPの導入可能性検討部会及び作業部会を立上げ検討を行いました。検討を行うにあたり、市民サービスの質の向上、コスト削減、財政負担の軽減、地域経済の活性化などの視点で進めました。検討状況として、①現状分析・課題の洗い出し②課題に対する対応方針と業務分類の検討を行い、導入可能性のある複数の事業スキーム案を作成しました。	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	複数の事業スキーム案の中から、導入効果が十分に表れる案を絞り込みます。

部課名		下水道部水再生センター											
課の使命		・下水処理施設の計画的な点検・調査・改築更新の実施、耐震化の促進により施設の機能を維持することで、市民が快適に生活できる環境を整えます。 ・再生可能エネルギーの活用や下水の高度処理の導入など、環境負荷の少ない処理運営を進め、地球環境の保全と循環型社会へ貢献します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業 成瀬クリーンセンターの耐震化	重点事業 成瀬クリーンセンターの耐震化	2022年度から行っている汚泥処理棟耐震補強工事(2022～2024年度)を引き続き実施します。	耐震化率	81.5%(累計)	○	汚泥処理棟の耐震補強工事については、建築構造物の耐震補強工事が完了しました。	引き続き、施工管理を適正に行い、工事を完了します。	汚泥処理棟耐震補強工事が完了し、目標を達成しました。	81.5%(累計)	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、水処理棟(地下構造物)の耐震補強工事を行っていきます。
2	重点事業 鶴見川クリーンセンターの耐震化	重点事業 鶴見川クリーンセンターの耐震化	2023年度から行っている焼却炉棟及び煙突基礎の耐震補強工事(2023～2024年度)を引き続き実施します。	耐震化率	30.1%(累計)	△	焼却炉棟及び煙突基礎の耐震補強工事については、入札不調の影響により、遅れが生じています。	関連工事との調整、施工管理を適正に行い、工事完了を目指します。	入札不調により、工事着手が2024年5月となったため、工程の変更が生じましたが、煙突基礎の耐震補強は完了しました。工事が完了しなかった焼却炉棟耐震補強工事については、2025年度も引き続き、工事を進めていきます。	21.9%(現状値)	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	引き続き、工程管理を適切に行い、2025年度の完了を目指します。
3	個別計画 ストックマネジメント計画(第II期)に基づいた下水道事業の推進	個別計画 ストックマネジメント計画(第II期)に基づいた下水道事業の推進	設備の詳細調査を行い、劣化状況、重要度に応じた修繕計画を作成することで、維持管理コストの平準化を図っていきます。	詳細調査の件数	10件(第II期累計30/50件)	○	年度目標10件のうち、上半期に予定していた成瀬クリーンセンターの最終沈殿池汚泥掻き寄せ機及びNo.3主ポンプ、鶴見川クリーンセンターと鶴見川ポンプ場の蓄電池盤の合計4件の劣化状況調査を行いました。4件ともに、機能が確保できていることを確認しました。	下半期に予定している6件の詳細調査を計画的に実施し、設備の劣化状況を把握し、改築更新および修繕の計画に反映します。	設備の詳細調査を予定どおり10件実施しました。調査の結果、成瀬クリーンセンターにおいて、機能が低下している設備を1件、軽微な劣化が見られる設備を1件確認しました。機能低下が確認できた汚泥棟蓄電池設備の修繕及び軽微な劣化が見られた水処理棟散気装置の補修をそれぞれ実施することで、機能回復を図りました。	10件(第II期累計30/50件)	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、劣化状況を調査し、計画的な維持管理を進め、コストの平準化を図っていきます。
4	個別計画 下水処理水の水質向上	個別計画 下水処理水の水質向上	①老朽化した散気装置(※1)を交換することで効率化を図ります。 ②2021年度から実施しているB-DASH技術に関する自主研究について、引き続き実施している6項目のうち、2項目の完了を目指します。  ※1 汚水を処理するため、微生物の活動に必要な空気を反応タンクに送り込む装置。	①高効率散気装置の導入率 ②自主研究完了項目数	①44%(累計) ②2項目	△	①交換する散気装置について、4月に物品購入契約を締結しました。  ②B-DASH施設からのN <sub>2</sub> O排出量抑制の可能性を探るため、N <sub>2</sub> O排出抑制運転調査に着手しました。	①1月に交換作業を実施します。 ②引き続きN <sub>2</sub> O排出抑制運転調査を実施するとともに、NH <sub>4</sub> 制御について11月・12月に実施し、データを取得します。	①鶴見川クリーンセンターにおいて、高効率散気装置への交換作業を実施し、反応タンクの効率化を図りました。 ②N <sub>2</sub> O排出抑制運転の調査を実施し、B-DASH施設からのN <sub>2</sub> O排出係数がA <sub>2</sub> O法等の高度処理と同等であることを確認しました。また、NH <sub>4</sub> 制御運転の可能性調査を実施した結果、目標水質に比べて制御できることを確認し、B-DASH技術の新たな可能性を見出すことができました。	①44%(累計) ②2項目	C	C:目標水準を達成したためです。	①今後も10ヵ年計画に基づき、散気装置の交換を実施します。 ②引き続き、コスト削減及び更なる水質の向上を目指した調査を継続し、最適条件の確立と評価に向けた研究を継続して行います。
5	- 「ゼロカーボンシティまちだ」に向けた取組	- 「ゼロカーボンシティまちだ」に向けた取組	①鶴見川クリーンセンターで、町田市バイオエネルギーセンターで発電した電力を自己託送(※2)により利用するなどして、CO <sub>2</sub> の排出を削減します。 ②成瀬クリーンセンターで焼却炉の高温焼却を実施しN <sub>2</sub> Oの排出を削減します。 ③省エネルギー性能に優れた汚泥焼却炉に更新するため、2021年度から行っている汚泥焼却設備工事(2021～2025年度)を引き続き実施します。  ※2 地方公共団体などが自らの設備で発電した電力を、自らの施設で使うために、送電線を通じて直接送ること。	下水処理施設から排出される特定温室効果ガス排出量の削減率	40%(基準年度比)	○	①②鶴見川クリーンセンターでは、4月からCO <sub>2</sub> 排出係数0の電力の導入に加え、6月から町田市バイオエネルギーセンターで発電した電力の自己託送を開始しました。 成瀬クリーンセンターでは焼却炉の高温焼却の実施に加え、9月から再生可能エネルギー100%の電力の導入を開始し、特定温室効果ガス排出量の削減を進めています。 ③2025年度内の稼働に向けて、施工管理を適切に行いながら、施工	①②様々な省エネ施策を実施することにより、目標の削減率達成を目指します。  ③施工管理を適正に行い、工事完了を目指します。	①②鶴見川クリーンセンターでは、4月からCO <sub>2</sub> 排出係数0の電力の導入に加え、6月から町田市バイオエネルギーセンターで発電した電力の自己託送を開始しました。成瀬クリーンセンターでは焼却炉の高温焼却の実施に加え、9月から再生可能エネルギー100%の電力の導入を開始し、特定温室効果ガス排出量の削減を進めました。 ③汚泥焼却設備工事に関連する焼却炉棟耐震補強工事の入札不調の影響により、全体工程に遅れが生じています。	約45%(基準年度比)	C	C:目標水準を達成したためです。	①②引き続き、特定温室効果ガスの削減に努めます。 ③工程管理を適切に行い、工事完了を目指します。

順位	計画 類型	年度目標設定				中間確認			年度末確認				
		取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
6	事務 事業 見直し	資産の有効活用	未利用地・施設の未利用スペースの有効活用と、新たな収入を確保します。	未利用地の有効活用件数	1件	○	2024年4月から鶴見川クリーンセンターに清涼飲料水の自動販売機を設置し、行政財産貸付料の収入を得ました。	引き続き、未利用スペースの有効活用の検討を進めていきます。	鶴見川クリーンセンターに清涼飲料水の自動販売機を設置し、行政財産貸付料と売上分配金の収入を得ました。  また、有償貸し付けでスポーツ施設として活用されている鶴見川クリーンセンター内の敷地について、次期貸付期間(2025～2029年度)において、行政財産収入の増加となるよう協議を行いました。	2件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、未利用地有効活用の検討を行います。
7	事務 事業 見直し	業務・事務の 効率化	①成瀬クリーンセンター及び鶴見川クリーンセンター間の脱水汚泥運搬業務の事業手法を検討します。  ②下水道事業手法の選定に向け、事業の現状と課題及び対象とする業務と範囲を整理し、事業スキーム案を策定します。	①検討  ②事業スキーム(業務範囲及び実施手法)案の策定	①検討 ②完了	○	①脱水汚泥運搬業務の事業手法を検討し、方針を決定しました。  ②事業手法の検討に向け、各課の業務を洗い出すとともに、今後の業務上の課題(ヒト・モノ・カネ)についてアンケート及びヒアリングを実施し、現状と課題の整理を行いました。	①事業運用方法の詳細検討を行います。  ②現状と課題の整理結果を踏まえて、対象施設、対象業務の検討を進め、事業スキーム案を策定します。	①事業運用方法の方針を決定し、関連項目の予算に反映し、効果的な事業化を図りました。  ②下水道部ウォーターPPPの導入可能性検討部会及び作業部会として「管路作業部会」「処理場作業部会」を立ち上げ、「現状と課題の整理」を元に解決手段を検討し、複数の事業スキーム案を作成しました。	①事業化方針決定  ②完了	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	①2025年度に汚泥運搬車両購入の手続きを実施するとともに、実運用に向けて準備を進めます。  ②複数の事業スキーム案の中から、導入効果が十分に表れる案を絞り込みます。